

メイヨークリニック研修に参加した方々からのレター

第 16 回(2007 年度)メイヨー クリニック看護研修に参加して

園田美和

(独立行政法人 国立国際医療研究センター)

1 はじめに

2007 年に第 16 回メイヨークリニック看護師研修に参加する好機を得ました。この研修での経験や学びはとても重要で、現在の仕事に大変役立っています。メイヨークリニック研修後は 2008 年度から現在の職場に異動し、開発途上国の保健医療従事者への研修の実施、研究、ミャンマー・ベトナム・フィリピン等で JICA の仕事に携わっています。最近では“JICA ベトナム保健医療従事者質の改善プロジェクト”へ 2010 年から 2 年間、看護管理/研修管理の長期専門家として働かせて頂きました。

研修に参加した当時、約 8 年の ICU 看護師経験の中で取り組んできた課題、特に呼吸ケア・看護研究・スタッフ教育への関心が第一にありました。第二に、ポルトガルでの留学経験と現地の病院での職務経験、NGO での在日外国人支援の経験等を基に、他民族国家であるアメリカから国際看護や外国人看護師雇用の現状を学びたいという、二つの課題を胸に研修に参加しました。

2 メイヨークリニックでの研修

メイヨークリニックでは最新の設備やエビデンスに裏付けられた医療と看護に向き合い、感動したのを覚えています。同時に、その背景となる両国間の保健医療システムの違いと、提供できうる病院サービスの違いを実感しました。アメリカの看護をそのまま日本で実践することは不可能であり、また、より限られた人的・物的資源を考慮すると、日本の看護の良い面も見える様になりました。例えば、私達日本看護師は忙しくても医療事故や褥創発生予防に努め、患者さんにもできる限り向き合い、質の高い看護を提供する為に勤務外でも看護研究や院内外教育に参加し、新人教育も担当します。この様に勤勉に、組織的に、日本人らしい細やかな配慮をもって日々取り組んでいることに「もっと自信をもってもいいのでは？」と思える様になりました。二国間の違いを実感できたことや日本独自の良さを実感できたことは、現在の仕事にとっても役立っています。例えば、他国の看護や保健医療の向上の為に働く際には、日本の現状をそのまま押し付けるのではなく、相手国の保健医療システムの現状を考慮し、その国の強みを見出し、一緒に実現可能な計画を立てる様にと心がけています。

しかし、日本の労務環境や病院システム、看護管理面にはまだまだ改善の余地があり、アメリカから学ぶべきところも多いことに気付きました。メイヨークリニックは

全米でも有数のマグネットホスピタルであり、看護師の労働環境はよく、離職率も非常に低いです。看護師個人のライフスタイルに合わせた多様な勤務形態や進学等のキャリアアップ支援は、本当に魅力的です。また、副看護部長が管理者研修に於いて、「仕事のクオリティを維持して、長期で働くモチベーションを維持していくためには、自分を支えてくれる家族の存在が必要不可欠です。看護師は家族を第一に優先すべき」と語っていたことが心に響きました。

第二の学びは国際看護についてです。医療通訳や多言語での各種情報を整備するとともに、外国人看護師の働きやすい労働環境改善など、参考にできうる取り組みも多くありました。病院スタッフ全員に対し異文化看護研修への参加が義務付けられていることも興味深く、更には、メイヨー看護師の日本訪問による相互交流を基盤に、私達の研修は現地で快く受け入れられていることにも気づきました。メイヨーでお世話になった看護師達に日本で再会し、彼等の講演会に参加し、東京を案内できたことは良い思い出です。

そして最も思い出に残っているのは、研修全体をサポートして下さった Sandy さんとの関わりです。各自の研修目的に沿った研修プログラムのアレンジから、慣れないアメリカ生活全般へのサポートまで、大変お世話になりました。研修グループリーダーとしての責任にプレッシャーを感じていた私も含めて、グループ全員に日々心遣いを頂いたので、安心して研修に専念することができました。具合が悪くなったメンバーの為に、血圧計をホテルまで朝早く届けてくれたり、小さな疑問に答える為にも参考資料を忘れずに共有下さったり、研修中の希望を基に素早く研修先の再調整を下さったり等、彼女無しではこれほどに満足できる研修を受けることはできなかったと思います。

3 研修を終えて

現在、自身が研修担当者として開発途上国の医師・看護師達に対し研修を実施する機会も多く、メイヨーの研修体制や研修生の目標達成をサポートできる様な支援を参考にしています。そしてこの仕事を始める前に、Sandy さんという素晴らしいロールモデルに出会えたことは幸運だと思っています。Sandy さんは異文化看護学を専門で学んだ後、メイヨークリニックにおける異文化・国際看護を立ち上げ、異なるバックグラウンドをもつ相手を尊重し、相互理解に努めることを大事にされていました。海外で生活していると、時には自分の価値観が否定された様な気持ちになるときもあります。少なくとも自分は相手にそんな気持ちを抱かせることの無いように、Sandy さんの様に相手を導ける様に、と心がけています。

私自身メイヨー研修から得た学びは本当に大きかったのですが、帰国後に日本の看護の向上に目に見える形では貢献できていません。しかし、研修仲間を始めとする多

くの方との出会いやアメリカでの学びから、日本がこの先に長期的に取り組むべき課題やビジョンを持つことができ、自身の看護観にも大きく影響を与えています。研修機会を下さった木村看護教育振興財団の皆様や、快く研修に送り出してくれた所属先への感謝を、この先10年、20年と長い年月をかけて社会に貢献できればと考えています。そしてこの様な経験があるからこそ、私が関わっているアジアやアフリカの方々が日本から学ぶ機会があった場合、その国の未来のリーダーとして長期的な視野で自国の課題に取り組んでいって欲しいなど、長い目で期待を寄せることができます。

4 終わりに

最後に、この研修は本当に素晴らしいものなので、多くの若い看護師さん達に参加してもらいたいと思います。私の場合は、ICUにおける現場での課題解決に日々取り組んでいたこと、将来的に開発途上国での仕事を希望していたことや、TOEFL等のスコアから判断できる英語能力があり、師長さんが研修を紹介下さりました。師長さん自身が木村看護教育振興財団のオーストラリア看護管理者研修に参加した経験がある為、海外研修に対する理解があり、私はとても運が良かったのだと思います。英語力に関してはある程度の語学スコアがあっても、ネイティブの英語環境で研修を受けることには自信が無く、研修が決まってから数カ月間英会話レッスンに励みました。そのとき Skype 英会話レッスンでフィリピン看護師さんからレッスンを受け、医療に関する会話も練習しました。先日、フィリピン EPA に関連した看護現状調査に参加した際、その経験も役立ち、人生何が後で役立つかわからないなあと改めて実感しています。どんな経験でも、やってみれば道は開けるし、結果は後から着いてくるので、多くの方に参加頂きたいと思います。



メイヨークリニック ICU での研修風景 (2007)



ミャンマーサイクロンナルギス後国際緊急援助隊活動 (2008)



開発途上国の研修生を迎えての JICA 院内感染管理指導者養成研修 (2012)



ベトナム国家看護新省令公布の会議にて 日本の看護の経験についての発表 (2011)

【プロフィール】

園田 美和<そのだ みわ>

平成 10 年～ 慶応義塾看護短期大学卒業。

卒業後は東京女子医科大学病院、心臓血管外科 ICU に勤務。

平成 14 年～ ポルトガル留学。国立ポルト大学・ブラガ大学にて Advanced Language Diploma 取得。また、British Hospital の手術室に勤務。

平成 16 年～ 国立国際医療研究センター ICU/CCU に勤務。

医療安全係として病棟内でのリスクマネジメントに取り組み、研究発表を行う。また、ACLS インストラクター（日本救急医学会認定）、呼吸療法認定師（日本麻酔科学会・呼吸器学会・胸部外科学会認定）を取得し、ICU ケアの向上に努めた。

平成 20 年～ University of Liverpool, MPH コース (online) 開始。

平成 20 年～ 国立国際医療研究センター 国際医療協力局 派遣協力課第二課に勤務。

JICA ベトナム保健医療従事者質の改善プロジェクト「看護/研修管理」長期専門家 JICA ミャンマー主要感染症プロジェクト HIV/AIDS「安全血液」短期専門家 JICA 集団研修「院内感染管理指導者養成研修」担当、JICA フィリピン看護・介護人材育成分野調査等、海外専門家派遣、外国人研修支援、各種調査 研究等に携わる。

平成 25 年～ 厚生労働省 医政局 看護課に出向（EPA 看護師、外国人看護師の受験資格認定等担当）